

Publish Date

2022 年 4 月 6 日

Editor, Publisher

日本赤十字九州国際看護大学図書館

Nippon sekijuji kyushu kokusai kango daigaku tosyokan

Japanese Redcross Kyushu International college of Nursing Library

Web URL

<https://www.jreckien.ac.jp/library/>



Special Thanks to

DOTOWN

DOT ILLUSTR

ドット絵世界 PIXEL ART WORLD

ウェブでも公開中！

<https://www.jreckien.ac.jp/library/library0503/library0502/>



2022

新入生に

すすめる本

先生・先輩方による

読書のススメ

はじめから
つづきから
図書館で本を借りる

新入生のみなさん

入学おめでとうございます

本学では「医療に携わる人として深い教養と知性を身につけるため、本に親しんでほしい」という願いから、毎年の入学式で教員と在学生によるブックガイドを配布しています。

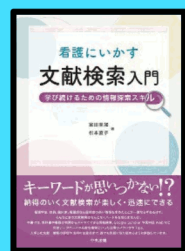
ここで紹介されているのは、新入生の皆さんに向けて、先生方や在学生が「ぜひ読んでほしい」と選んだ一押しの本です。ジャンルも、看護に関するものから人生について考えるものや小説と幅広く、みなさんの好奇心を刺激するような本が出揃いました！

掲載している本は図書館に所蔵していますので、実際に手に取ってみることができます。大学での学び始めに、ぜひご覧ください。

『看護にいかす文献検索入門』

学び続けるための情報探索スキル

富田美加、松本直子 著
中央法規出版 2021年



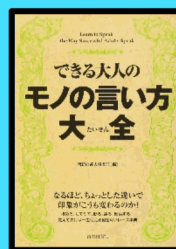
大学で学ぶことの醍醐味は「知の探究」です。高校までとは異なり、自分の関心あるテーマについてアンテナを張り、自分でその知を集積していかなければなりません。そのためには、世界に広がる知の体系から系統的にスマートに手がかりを得ていく必要があります。本書は、看護学の知をどのように情報探索するか手ほどきしてくれます。著者の一人は私の元同僚でもあります。わかりやすく皆さんを導いてくれること間違いなしです。

所在：2F 開架 N0711T

小松 浩子 学長の
おすすめ

『できる大人の モノの言い方大全』

話題の達人倶楽部編
青春出版社 2012年



私は、状況に応じて言い方を細かく使い分ける日本語を英語以上に難しいと思うことがあります。若者言葉に慣れた人も、これから様々な人とかがわる中で、難しいと感じることがあるかもしれません。例えば、初対面のあいさつにしても、「うんと目上」「ちょっと年上」「同格」「年下」といった相手に応じて、微妙に言葉を使い分けなければならないからです。時と場合と相手に応じて、的確な言葉を選ばなければ、できる大人になれないですね。この本はモノの言い方の代表的な用例が網羅されており、状況に応じた大人の言い方を身につけ、困った時に活用することができます。

所在：2F 開架 809.211W

図書館長
永松 美雪 教授の
おすすめ

『医者はいないところで 村のヘルスケア手引書 2015 年版』

デビッド・ワーナー著、河田いこひ原訳、
シェア=国際保健協力市民の会監修
シェア=国際保健協力市民の会 2018 年



国際看護領域
宇都宮 真由子 助読の
おすすめ

■ 医者はいないところで、病気の人に出会ったら、今のあなたは何かできるでしょうか。医療の知識がないから何もできないわけではありません。この本は、私が海外青年協力隊時代に村の医療知識のないボランティアや病人に対して、どのようなことができるか指導に迷った時に会った本です。病気の知識や病人のお世話のことだけでなく、生活の中に組み込まれたヘルスケアについて書かれています。こんな方法もあるのかと、今読んで面白く感じられる本です。手書きの絵にも味があります。あなたが今抱えているカラダの問題も解決してくれる本かもしれません。

所在：2F 開架 498.111

『注文の多い料理店』

宮澤賢治作、小林敏也画
好学社 2013 年



■ 私が紹介する本は『注文の多い料理店』です。あらすじは、紳士 2 人が山の中で遭難し、お腹を空かして、やっとのことで見つけた西洋料理店に入った、しかし、その料理店は客への注文が多い料理店だった…というものです。「金目のものを全ておいてください」「体中に塩をもみ込んでください」…最終的には紳士 2 人が下ごしらえされる、衝撃的な展開が待っています。徐々に内容がエスカレートする注文と、二人の紳士の反応に注目です。子供から大人まで読みやすい短編小説なので是非一度は読んでみてください。 所在：2F 開架 726.6111



2021 年 学内ビブリオバトル チャンプ本



『それしかないわけ ないでしょう』

ヨシタケシンスケ著
白泉社 2018 年

2 年生
小川 舞桜 さんの
おすすめ

■ 皆さんは壁にぶつかった際、“どうせこうなるんだ”“仕方ないよ”と自ら選択肢を狭めてしまうことはありませんか。私もこの本と出会うまで、“どうせ”と理由をつけて逃げてしまうことが多かったです。大学生活で思うようにいかない時、この本は諦めるのではなく、与えられた選択肢以外の道があることを教えてくれました。大学では、自分の知らない世界ばかりで、様々な考えを持った人がたくさんいます。良いか悪いか…与えられた選択肢から判断するのではなく、そんな考え方もあるんだ〜と、“隠れた道”を発掘することで、自分の視野も広がるのではないかと思います。新たな道へ進み、夢と希望でいっぱいな気持ちを忘れず、この絵本のよう

所在：2F 開架 913.6110



2 年生
大隈 花菜 さんの
おすすめ





国際看護領域
小川 里美 教授の
おすすめ



『「がんになって 良かった」 と言いたい』

山口雄也，木内岳志著
徳間書店 2020 年



本書は「赤十字 NEWS」2022 年 1 月号で紹介されたものです。
筆者は縦隔原発の胚細胞腫瘍と診断され切除術を受け、その後急性リンパ性白血病を発症、骨髄移植、ハプロ移植を受けた後、白血病が再発、そして急性骨髄性白血病を発症と 19 歳から 23 歳の 4 年間、すさまじい闘病生活を送りました。「死」を意識しながらも、常に「生きる」を問いつづけ、自らの考えや苦悩、決意、闘いをブログや SNS で配信し続けました。それらをまとめたものが本書です。自分の身に起こっている事象を深く探究しながらわかりやすくかつ重厚に表現されており、その内容に心が揺さぶられます。かつて京都の赤十字病院で血液内科病棟の看護師長をしていた時に会った患者さんとの思い出が走馬灯のように浮かびました。赤十字 NEWS にも記載されていましたが、本書には献血への感謝も述べられています。赤十字で看護を学ぶ皆さんには、是非手にとっていただきたい一冊です。

所在：2F 開架 916.11Y

看護の基盤領域
鬼丸 美紀 助教授の
おすすめ



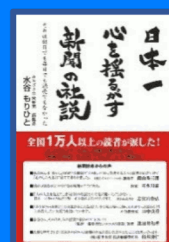
『犬がいた季節』

伊吹有喜著
双葉社 2020 年



『日本一心を揺るがす新聞の社説』

水谷もりひと著 こま書房新社 2010 年



中学生の頃、新聞の社説を読み、所感を書くことが夏休みの宿題でした。嫌々ながら夏休みの後半、しかも何日かで慌てて数日分の社説を切り抜き、無理やり感想を書いて提出した記憶があります。

「どうしてもよいこと、不必要なことをやたらにたくさん知るよりもたとえ少しでも真によいこと、必要なことを知る方がよい」

著者の水谷さんは、トルストイが残したこの言葉が忘れられず、そのような情熱を伝えていきたいと思ったそうです。中学生の頃の私には、政治や経済の社説なんてどうしてもよいと感じる（その時には）不必要なことだったのかもしれない。

ここに書かれている一編一編は、日々の生活の小さな出来事や情報を思いやり・やさしさなど「情」のフィルターを通して書かれたものです。命をいただき食事をする、子供を育てること、友人と会うこと、日々営む生活がちょっとだけ特別に感じようになり、読むと優しい気持ちになれる、風景が変わる、そんな本です。ぜひお試しください！

所在：2F 開架 914.6111

とある進学校で飼われていた「コーシロー」という 1 匹の犬。その犬がいた昭和から平成に移り変わる 12 年間、18 歳という人生の岐路に立つ高校生連達の物語が、1 匹の犬の眼を通して描かれています。

「18 歳」の選択はその時の自分にとってはとても重大なことでした。しかしながら、人生の選択は 1 度きりではなく、いつでも変更するチャンスがあるということにも気づかされます。

犬好きの私は「犬」という題名に惹かれて手に取りましたが、1 話は短編ですのでとても読みやすくなっています。

卒業したばかりの人も、ちょっと昔に卒業した人も、この本を読んで自分の高校時代を思い起こしてみませんか。

所在：2F 開架 913.6111



『余命一年、男をかう』 吉川トリコ著 講談社 2021年

私の紹介する本は、吉川トリコさんの『余命一年、男をかう』です。この本の主人公、片倉唯(40歳)は、資産管理アプリで資産総額を眺めることを一日の楽しみにしている独身女性です。がんを宣告された帰りに、ピンク髪の男性から「あのおねーさん、いきなりで悪いんだけど、お金持っていない？」と声をかけられ、唯と男性の奇妙な関係が始まります。作中には共感したり、考えさせられたりする登場人物の言葉が多くあります。ぜひ手にとってみてください。

所在：2F 開架 913.611Y

2年生 草村 葵理 さんのおすすめ



『わが魂にあうまで』

クリフォード・W. ピアーズ著 江畑敬介訳 星和書店 1980年

本著はアメリカ精神衛生運動創始者クリフォード・W. ピアーズにより1908年に出版されたものです。精神が不安定だった彼は、エール大学を卒業後に、徴税事務所や保険会社に勤務しますが、やがて発病し精神病院に入院します。C・ピアーズは精神病院で経験した悲惨な環境や虐待を通して、真実を追求するためにペンをもち体験した出来事を書き続けます。

C・ピアーズの人生の目的は、実業家として成功するといった現世的な栄光ではなく、精神障害者の処遇と治療の向上および精神障害を予防することであり、今日の精神科医療の礎となしています。1908年の日本は、精神病患者監護法によって監護の責任者(主に精神障害者の家族がなっていました)が精神障害者を私宅などに監置することが合法とされた時代でした。国の違いによって精神疾患に対する治療の現状は異なります。しかし、博愛という言葉を考える際に、声なき声に耳を傾けるうえで、本著はとても参考になると思いますので、1年生の皆様は是非読んでみてください。

所在：2F 開架 493.791JB

メンタルヘルス領域 高橋 若美 教授のおすすめ



『100万回生きたねこ』

佐野洋子作・絵 講談社 1977年



子どもの頃に読んだ絵本を、月日が経って読み直したことはありますか？今回紹介する絵本とは「小学生の頃」「高校生3年生の頃」「子どもと一緒に」と約30年の付き合いになります。

小学生の頃に読んだ時には「ふ〜ん、主人公にとってよかったのかな？」という感想でした。高校生時代は熱烈に想う人がいたので、絵本の登場人物と自分を重ねて「私も白猫になりたい！」と学友に熱弁しました。そして、母親になって絵本を開いた時は「なぜ何度も生き返ったのかな？」と子どもと一緒に絵本の世界に想いを馳せる時間を与えてくれました。

みなさんが幼少時代に出会った絵本をどうぞまた開いてみてください。きっとあの時と違った時間を楽しむことができますと思います。

所在：2F 開架 726.511S

老年・慢性看護領域 鈴木 綾子 助教のおすすめ



『52 ヘルツのクジラたち』

町田そのこ著 中央公論新社 2020年

2021年本屋大賞受賞作なので、既に読んだことがある方も多いのではないのでしょうか。この本の主人公 貴湖(きこ)は、ある事件をきっかけに何もかも捨て、都会から離れた大分県の田舎町に移住します。そこで出会った少年との関わりを通して、ずっと孤独で寂しかった自分と向き合い乗り越えていきます。

貴湖自身の生い立ち、母親から虐待を受けている少年、大切だった人の哀しい嘘…と心が絞めつけられるような展開が続きますが、序盤に出てくる「第二の人生では、キナコは魂の番(つがい)と出会うよ。愛を注ぎ注がれるような、たったひとりの魂の番のようなひとときと出会える。」という一節が全ての救いになっています。

新入生の皆さんには、既にたくさんの友人がいることでしょう。大学生活では、自分を犠牲にしても大切にしたい、幸せになってほしいと思えるような、「魂の番」をたった一人でも見つけて欲しいと思います。

所在：2F 開架 913.611H



総務課 長谷川 隆 さんのおすすめ





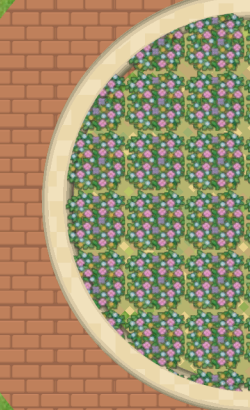
『断片的なものの社会学』

岸政彦著
朝日出版社 2015年

私がおすすめる本は『断片的なものの社会学』です。社会学と聞くと難しいイメージを持つ方もいらっしゃると思いますが、この本はそのイメージを払拭してくれます。生活の中で見落としがちな小さな断片を、ふらっと出かけた町で出会った人へのインタビューや、著者のごく普通の生活から見つけていきます。一人一人に大切な人生があり、その人たちによって創られた社会とは何かを私たちに問いかけている本です。私がこの本に出会ったのは、大学2年の春でした。それから、様々な経験をして社会の見え方は変わっていきました。変わっていく中でも、社会において本当に正しいことは何か、考えることをやめてはいけなさと教えられている気がします。

所在：2F 開架 361.0411K

4年
峯 まはる さんの
おすすめ



『ぼく モグラ キツネ 馬』

チャーリー・マッケジー著、川村元氣訳
飛鳥新社 2020年

みなさん大学生活はいかがでしょう。色々な思いを抱いて入学されたことと思います。

楽しみが大きいですか？それとも不安？これから多くのことを学び体験していきますが、つらいこともあるかも

そんな心が疲れたときに、この本を手にとって読んでみてください。本が寄り添ってくれることがあると思います。この本は、ぼくとモグラ・キツネ・馬が対話をしながら旅を続け、優しさや生きる意味を見つけていくお話です。「生きていくと嫌なことは目に入る。それでも世界は想像もできないほどの愛にあふれている。」これは筆者からのメッセージです。この本があなたを勇気づけてくれますように。

所在：2F 開架 726.6111

成育看護領域
福田陽子 講師のおすすめ



『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』

ユヴァル・ノア・ハラリ著、柴田裕之訳
河出書房新社 2016年

大学の魅力は何と言っても図書館、年を重ねても住まいの近くに図書館があるといいなと思います。さて、テレビ番組で著者と学生の200Mミーティングを見て検索、本学図書館に所蔵があり借りました。この本は、歴史について自分の固定観念を覆し新しい眼で物事を見る体験をさせてくれます。例えば、ほとんどの人は、自分がいかに平和的な時代に生きているか実感していない、私たちは集団全体の苦しみよりも個人の苦しみに共感しやすいとの言葉。歴史展開を理解するためには統計が重要であり、事実を知ることが未来に向かって今を理解する手掛かりになるようです。これからも、何度か読んでいきたい本です。

所在：2F 開架 209.111111~2

ヘルスプロモーション・在宅看護領域
宮川孝子 助教の おすすめ



『目の見えない人は世界をどう見ているのか』

伊藤亜紗著 光文社 2015年



私はこの本を読むまで、目の見えない人は不自由で大変、助けてあげないといけない存在だと、傲慢にも思っていました。しかしこの本では、すぐに手を差し伸べるのではなく、まずは相手の見る世界に好奇心の目を向けることを提案しています。そうすることで、お互いの違いを面白い対等な関係になれると筆者は考えています。私が特に印象に残っているのは、見える人と見えない人が一緒に美術鑑賞をするワークショップの話です。詳しくはぜひ本を読んでいただきたいのですが、会話しながら作品を鑑賞することで、お互いに新しい発見や気づきを得ることができるのだそうです。この本を読んで感じた、「あなたにはそんな風に見えるんだ！」「そっちの見方も面白いね！」という感覚は、皆さんの大学生活をきっと豊かにしてくれると思います。ぜひ読んでみてください。

所在：2F 開架 369.275111

図書館司書
元岡 鈴子 さんの
おすすめ





リベラルアーツ・専門基礎領域
柳井圭子 教授の
おすすめ



大学は、社会で生きるための準備期間です。よりよく生きることを目指すとしても、よくある躓きは人との関係です。知恵と向き合い方を読書で探求するとして、3冊、ご紹介します。



ハートラ
参上!

入門

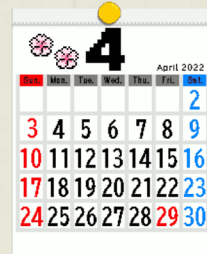
『はせがわくんきらいや』

長谷川集平著 復刊ドットコム 2003 年



絵本です。子どもの社会のいじめ問題かと思えるタイトルです。その思いはきっと裏切られるでしょう。主人公は、「はせがわくん」をきらいという「僕」です。その子の目を通し、面倒な子への素直な感情、でも放っておけない情が複雑に絡む子どもの心の葛藤、思いのままふるまってしまう行動が詰まっています。ここから「共生」社会とは何かを考えてみましょう。また、本書には長谷川くんに起こった出来事が出てきます。この時代の重大な健康被害の事件です。学習過程で、どこかで学ぶことになります。

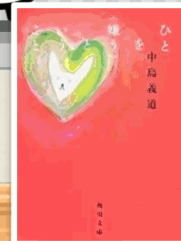
所在：2F 開架 726.611H



『ひとを「嫌う」ということ』

中島義道著

KADOKAWA/角川文庫 2003 年



初級から中級

筆者は、福岡出身の哲学者です。本書は、哲学者である筆者が、妻や子との軋轢から「嫌われる」「嫌う」ということを徹底的に考え抜こうというものです。極端な考え方もあります。でも、疑問があれば追求する、その姿勢は、大学生にとって習うべき姿勢です。本書は、「嫌い」を真剣に追求することで、その感情の原因、要因を示しています。本書から、嫌われない効果を目指した振る舞いや技術を考えることができますが、筆者は、その難しさも説いています。嫌いになるということは好きと同様、自然なことであるという扱いがあり、その感情とうまく付き合っていく知恵を考えることができます。人間関係による生きづらさを感じた際に、聞いてみてください。気持ちが楽になるかもしれません。

所在：2F 開架 361.411N

『これからの「正義」の話をしよう』

いまを生き延びるための哲学』

マイケル・サンデル著、鬼澤忍訳

早川書房 2010 年

著者については、NHK「ハーバード白熱教室」で知っている方もいるでしょう。専門は政治哲学ですので、本書も哲学書です。ただ本書は、わかり易い例を用いて、基本的で重要なことを様々な視点でみるとどうなるのかを解説しています。「ジャスティス」正義、自分が信じるものが果たして本当に「正しいのか」と思わず振り返ることになるでしょう。自分で考え、他と議論すること、そこから自分自身の「正義」を掴むことで、これからをどのように「より良く」生きるのかという問いと向き合えます。答えは簡単なことではないのです。大いに悩んで下さい。

所在：2F 開架 311.111S

これからの「正義」の話をしよう

いまを Justice
生き延びる
ための哲学
マイケル・サンデル
Michael J. Sandel 著 鬼澤忍 訳

中級から上級



「ビブリオバトル」を やってみたい！



紹介する本は
どんなジャンルでも OK ガー!!

今回本を紹介してくれた先輩方は、昨年度の学内ビブリオバトルの発表者です！

ビブリオバトルは、本の紹介コミュニケーションゲームです。

「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーに、知らない本や人に出会い、世界が広がる新たな知的ゲームとして、大学や図書館だけでなく小・中学校から地域のコミュニティまで幅広く行われています。宗像市にも市民主催の「宗像ビブリオバトル倶楽部」があり、大人から子供まで楽しめるイベントとして活発に開催されています。毎年、高校生・大学生を対象にした全国大会も開かれており、本学からもこれまでに5名の学生が全国大会に出場しました。

本学では、予選会を兼ねて年2回程度学内ビブリオバトルを開催しており、昨年度は、初のオンラインビブリオバトルを開催しました。

やり方はとてもシンプル！まず、発表者による本の紹介を聞き、参加者全員で、その中で一番読みたくなった本を選びます。一番多く票を集めた本がチャンプ本です。

「話すことが大好き!」「大好きな本を紹介したい!」というそのアナタ。ぜひ参加してみませんか？

「人前で発表は無理・・・!」というアナタ。堅苦しいプレゼンテーションなどではありません。まずは、どんなものか見てみませんか？

少しでも気になった方は、気軽に図書館までお声掛けください♪

知的書評合戦
ビブリオバトル

